

令和7年11月20日

岩沼市議会議長 酒井 信幸 殿

議員氏名 布田 恵美

調 査 研 究 等 報 告 書

実施期日	令和7年11月5日（水）～ 年11月7日（金）
参加者 氏 名	布田 恵美
調査地等 及 調査事項 等	(1) 調査地・研修場所（北海道函館市） 日時 令和7年11月5日午後1時30分～4時00分 調査・研修内容 基礎からわかる人口問題と財政問題 地方創生・人口問題の基礎① ・地方創生って何だったのか？過去とこれから ・「定住促進」だけでは生き残れない自治体の戦略 ・なぜ若者は出ていくのか？構造問題としての人口減 ・ふるさと住民登録制度の創設について ・国の成長戦略とズレない地方の独自色とは
	(2) 調査地・研修場所（北海道函館市） 日時 令和7年11月6日午前10時00分～12時30分 調査・研修内容 地方創生・人口問題の基礎② ・骨太の方針2025のおさらい ・RESASを使ってみよう ・RAIDAを使ってみよう ・自治体間競争の時代～どう選ばれる「町」になるか ・議会が主導する地方創生～あなたの提案は届いているか

	(3) 調査地・研修場所（北海道函館市） 日時 令和7年11月6日午後2時00分～3時15分 調査・研修内容 函館市中央図書館（函館市五稜郭町26番1号） 指定管理者図書館流通センター・マルエイヘルシーサービス共同事業体が運営している当館においての事業内容調査。
	(4) 調査地・研修場所（北海道函館市） 日時 令和7年11月7日午前10時00分～12時30分 調査・研修内容 財政問題の基礎② ・比較してみないと理解できない ・財政比較表を活用しよう ・あるべき姿は政治家が決める ・決算審査と行政評価の役割～成果主義と議会の責任 ・財政がわかると議員活動に力が増します
	(5) 調査地・研修場所（北海道苫小牧市） 日時 令和7年11月7日午後5時00分～5時40分 苫小牧市民活動センター（苫小牧市若草町3丁目3-8） 当施設は社会福祉法人・苫小牧市社会福祉協議会が指定管理で運営している。施設内容としては社会福祉活動、男女平等参画推進活動その他の市民活動の促進を図るため設置。多機能の施設としてどのように運営され、利用されているのかを調査。

※ 別途報告書を作成の上、添付してください。

※ 報告書には、報告者氏名、調査・研修目的、調査・研修内容及び効果・成果等を記載の上、その他調査・研修内容が分かる資料（視察時資料、研修資料等）を添付してください。

研修成果)

～研修 1、2、4 について～

- ・基礎からわかる人口問題と財政問題
地方創生・人口問題の基礎①
- ・地方創生・人口問題の基礎②
- ・財政問題の基礎②

講師・杉本康介氏は、財務省の官僚OBの若い方であり、テンポよく、講義を進めていかれた。

特に研修 1・基礎からわかる人口問題と財政問題の講義では、まち・ひと・しごと創生法の概要から始まり、2024年に地方創生の取組が本格的に始まってから10年の節目を迎えて、成果はどうであったのか、を紐解いていた。

東京圏への過度な一極集中への対応がどうなっているのか、人口減少に歯止めをかけることは進んだのか。

女性や若者にとって魅力的な地域づくりや、その他、男女間・地域間の賃金格差など、積み残した課題が山積している現実、手厳しい解説を展開された。

生産年齢人口の急激な減少という避け難い現実に直面する中で、それを前提とした地域の担い手の育成・確保策、労働生産性の抜本的向上に向けた施策、さらには日常生活に不可欠なサービス基盤の維持・確保といった根幹部分に対する戦略的な対応が、十分に講じられてこなかった。

そんな中、令和7年6月13日閣議決定がされた「地方創生2.0基本構想」では、

①「強い」経済 ②「豊かな」生活環境 ③「新しい日本・楽しい日本」を目指す姿として掲げている。

関係人口を実人数1,000万人、延べ人数1億人創出、AIやデジタルを活用し、地方課題の解決を図る市町村の割合を10割に・・・

「若者や女性にも選ばれる地方をつくること」、そのために施策を総動員し選ばれる地方をつくることや、働き方・職場改革、アンコンシャス・バイアス等の意識変革が急務ではないだろうか。

講義の中では、再三、AI、チャットGPTやRESAS、RAIDAの活用、についても熱く語る講師であった。また、函館で開催したことの意義も強く語られた。「時間の限り、函館市内を歩いて感じて下さい。自治体の弱体化を肌で感じて下さい」

～研修 3 について～

函館市中央図書館を訪問。

函館市に7か所ある図書館・図書室の中心となる施設である。

近隣には美術館や五稜郭公園があり、文教地区と歴史を感じられるエリアに位置する。

2階建の建物のなかには中高生向けのヤングアダルトコーナー、一般開架コーナー、視聴覚ホールなど20余りの区分けがなされている。

館内には喫茶もあり、学習や読書、グループワークなどで各自の作業に過ごしながらもゆったりと過ごせる空間になっているようであった。

また、市民活動や歴史を学ぶ活動拠点としての思い思いの活用にも利用されている様子が見てとれた。

岩沼市においても、市街地中心部に位置する図書館として市民に広く利用されていることが喜ばしく、時に市民の絵画や文芸の発表の場としての活用もあることを見聞きする。視察先の施設とは、敷地面積や建物規模も異なるので単純に比較は出来ないが、より多くの方にこれからも集っていただける図書館であってほしい、と願う。

～研修5～

最終日、函館市での研修日程を終えて、苫小牧市民活動センターでの視察計画であった。

前日、道内でJRにおいて車両トラブル発生とのことで、急遽車両点検のため函館駅からの出発が約30分ほど遅延。そのまま苫小牧駅着が遅れてしまい、先方には電車内から事情を伝え、遅れての会場到着となってしまった。

慌ただしい訪問となってしまったものの、限られた滞在時間の中大変に濃いご教示をいただいた。

特に、活動センター内で社協として行なっているものと地域との連携で行なっている事業、不登校や引きこもりに対しての対応、日頃から社協として心がけていることからの成果につながっている事例などをお聞かせいただいた。

岩沼市社会福祉協議会でも同様の視点で取組んでいるであろう、地域の情報を得るために町内会行事への参画により、情報を得られていることや、苫小牧市内高齢化が進む地域での移送サービス、コミュニティカフェ、犬・猫一時預かり事業なども展開されていると聞いた。